

「IRIS 療法」について

この治療法は、大腸癌の代表的な治療法です。この治療法では S-1、イリノテカンの2種類の薬剤が使用されます。

1. 投与方法

1) 注射薬

薬剤	効能または使用目的	投与時間
パロノセロン+ デキサメタゾン	吐き気止め	15分
イリノテカン	抗がん剤	90分
生理食塩液	点滴ライン洗浄	約5分

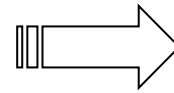
2) 内服薬

S-1	抗がん剤	朝夕食後内服
-----	------	--------

2. スケジュール

IRIS 療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。S-1 は初日の夕食後からスタートし、15日目の朝食後まで内服します。その後の14日間は休薬期間になります。イリノテカンは初日と15日目に点滴します(2週間に1回)。「休薬期間」では体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目			
	1日目～14日目		15日目～28日目	
S-1	○			
イリノテカン	○(1日目)		○(15日目)	



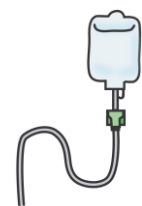
3. 特徴

●イリノテカン

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった時はお知らせください。

併用する薬剤や食品(グレープフルーツなど)によってはイリノテカンの作用に影響するものがあります。
現在服用している薬剤や健康食品などがありましたらお知らせください。

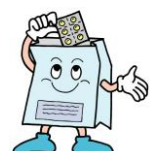


●S-1

作用: がん細胞の DNA 合成を抑制すると共に、たんぱく質の合成も阻害することで抗がん作用を示します。

注意事項: 「カペシタビン」という抗がん剤と併用すると副作用が重篤化してしまうため併用禁忌となっています。

ワルファリンカリウム(抗凝固薬)、フェニトイン(抗けいれん薬)を服用している場合は申し出てください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

下痢

好発時期:【早期型の下痢】投与中あるいは直後から翌日にかけておこる下痢で一過性であることが多い。

【遅発型の下痢】投与後24時間以上たってからおこり数日間続く下痢。

投与を開始してから1週間以内に起こることが多く、1～2週間頃に症状のピークを迎えます。

ただし、初回投与から3週間は下痢の発現に注意してください。

まれに重症な下痢になった場合、腸管粘膜の防御機構が障害されて感染の危険性が出てきます。

症状が長く続く場合は脱水の原因にもなるため水分を多めに取るよう心がけてください。

対策:水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。

予防的に漢方薬が処方になることがあります。

牛乳などの乳製品、コーヒー、アルコールは避けた方がよいでしょう。

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期:抗がん剤を投与後14日目くらいに減少のピークを迎え、28日目くらいには回復します。

対策:細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



貧血

赤血球の成分が少なくなると貧血を起こすことがあります。自覚症状としては息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみ、などが現れます。

好発時期:抗がん剤投与後7～14日後より徐々に症状が現れてきます。

対策:激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。

鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

倦怠感

好発時期:注射後に体の疲れやだるさを感じることがあります。

対策:こまめに休息を取ったり、睡眠時間を確保して、身体を休ませましょう。

症状が長続きするときにはご相談ください。



食欲不振・味覚障害

好発時期:点滴終了後から数日間で起きてくることがあります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味を感じなくなる(甘味、塩味、苦味など)ことがあります。

対策:食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

口腔ケア(「**口内炎**」の項参照)によって味覚障害が予防できることがあります。清潔に保つよう心がけてください。

口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接障害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によっておこる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触れるとザラザラする、など)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤、腫脹、などです。**出来やすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期:抗がん剤投与後、数日～14日目くらいに発症しやすくなります。

対策:次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)、など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療、など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外にも口の中が不快な場合(乾燥、違和感、口臭、など)はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩: 4.5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2～3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎が出来てしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎が出来てしまったらご相談ください。

水疱や、白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



便秘

イリノテカンはその殆どが便中に排泄されます。つまり便秘になるとイリノテカンの排泄が遅くなり副作用(下痢や骨髄抑制)が起こりやすくなると考えられます。このため排便コントロールが大切になってきます。

好発時期: 治療当日～数日間が起こりやすい時期です。

対策: 水分を多めに摂取したり、食物繊維を取るよう心がけてください。

便秘に対してお薬が処方になることがあります。症状にあわせて服用してください。

●代表的な便秘のお薬

酸化マグネシウム: 水分を取り込んで便を柔らかくしたり、かさを増やしたりして排便しやすくします(緩下剤)。

センノシド: 腸管の蠕動運動(便を送り出す運動)を亢進させて排便しやすくします(下剤)。

脱毛

好発時期: 2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

対策: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。発症率はまれですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



アレルギー

好発時期: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、**息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、など**です。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることがあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期: 点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表: TEL 028-626-5500